

平成19年度 事業計画書

目 次

【 1 】 学園の事業計画（概要）

- 1．財政計画
- 2．学園の教育環境整備
- 3．地域への取り組み

【 2 】 設置校の事業計画

- 1．日 本 文 理 大 学
- 2．日本文理大学附属高等学校
- 3．日本文理大学医療専門学校
- 4．NBU大分美容専門学校

学校法人 文理学園

平成19年度 事業計画書

学校法人文理学園は、社会に必要な個性豊かな人間性と、対人関係に最も必要な豊かな人間力を育成する教育を目指し、同時に、自由で創造性に満ちた高度な知性と能力を身につけ、様々な分野・領域で指導的な役割を果たすことのできる有意な人材を育成することを目的としています。

平成19年1月に、前理事長の逝去に伴い新たに就任した新理事長の下、当学園において慢性的になりつつある学生数の減少に伴う財政的な危機感を全教職員が認識し、学生数の確保を最重要課題と位置付け全員で取り組んでいくことにします。同時に、在学中の学生・生徒はもとより、これから当学園を志望する人たちの為に施設・設備の充実と教育環境の整備を整えることを念頭に置き、平成19年度事業計画を作成しました。

【1】学園の事業計画（概要）

1. 財政計画

（単位：百万円）

| 区 分 | 平成18年度決算額 | 平成19年度予算額 |
|-------------|-----------|-----------|
| 資 金 収 入 | 14,877 | 4,005 |
| 資 金 支 出 | 11,506 | 5,178 |
| 資 金 増 減 額 | 3,371 | 1,172 |
| 帰 属 収 入 | 4,689 | 4,145 |
| 消 費 支 出 | 4,920 | 5,309 |
| 消 費 収 支 差 額 | 529 | 1,648 |
| 資 産 総 額 | 47,127 | - |

（注）1. 単位未満切捨て

2. 資金収支及び資金支出は、繰越支払い資金控除後

2. 学園の教育環境整備

学園の教育環境整備を以下のとおり計画する。

）大学について

講義室冷暖房設備機器・照明器具更新、講義机更新、スポーツ施設整備、省エネ対策として共有部に照明センサーの設置、学内サイン、ゴミ分別収集箱設置、経年劣化した設備機器更新、情報センター雨漏れ対策工事を実施する。

）附属高校について

校舎改修工事を年次計画にて実施しており、今年度は、2階フロア改修、バリアフリー対策工事を実施する。また、老朽化した亀川研修所建物一部解体し、

サークル、部活動に有効活用できるように建物改修、研修所内の環境整備を一新する

-) 医療専門学校について
実験実習教室の整備を重点的に行う。
-) 美容専門学校について
防犯上設備の整備を行う。

3. 地域への取り組み

学園の設置する各々の学校が所在する地域の自治体、民間団体及び住民のコーラレーションを促進し、教育研究活動も含めて一層の協力体制を築き、地域に開かれた学校としての充実・強化を図っていきます。

【2】設置校の事業計画

1. 日本文理大学

大学は今年開学40周年を迎えることを好機と捉え、思い切った改組・改革を断行して、教育の理念である「産学一致」・「人間力の育成」・「社会・地域貢献」に対し教職員全員が同じ認識を持ち、安定した学生の確保の為に、中期将来計画「チャレンジ40」のスローガンを掲げてダイナミックな改革・変化を断行することにより、目標を完遂し多様化する厳しい環境に対処する。

(1) 教育課程と組織

-) 工学部5学科のうち、知能機械システム工学科、電気・電子工学科の平成20年度の募集を停止し、機械電気工学科を設置する届出を行った。またこれとともない学則も変更した。さらに、社会の要求に応えうる魅力ある学部の構築を目指し、平成21年度に向け経営経済学部の改組案を策定する。
-) 工学部旧学科（機械工学科、電気工学科）は在籍学生の卒業を待って廃止する計画である。
-) 教育の理念を具体的に実現する為に、教養基礎科目・専門科目にカリキュラムを設け、教育の実効をめざす。

(2) 教育活動

-) 多様化した学生一人ひとりに対して責任ある教育を行うため、特定の少人数担任制度をさらに充実させる。基礎学力支援センターを発展的に解消し、「人間力育成センター」を設置する。また、学力の高い学生のための選抜コース（平成18年度より「Sクラス」と呼ぶ。）に所属する学生の更なる資質向上を目指す。
-) 前年度に続き学期毎に2回の授業アンケートを実施し、授業改善の努力を行

う一方効果的な授業のための研修会を開催する。

-) キャリア開発教育として、学年に応じた個別対応面談システムを運用して就職率100%をめざす。また、各種資格取得のための講座の開設、インターンシップの推進、合同企業セミナーの開催など多様な指導に基づくキャリア開発教育を引き続き行う。
-) GPA制度の導入による学力の増進を図る。
-) GAKUENシステム(UNIVERSAL PASSPORT)の導入による学生の出席・成績管理をはじめ学生の支援と指導を充実させる。

(3) 研究活動

-) 文部科学省の研究推進事業である「私立大学学術研究高度化推進事業」の中の「ハイテク・リサーチ・センター整備事業」に採択された本学のマイクロ流体技術研究所の研究プロジェクト「昆虫型超小型飛翔ロボットの研究開発」の研究成果を蓄積し、中間報告を行う。
-) 「産学官民連携推進センター」の業務を推進し、教員の研究情報を発信すると共に、研究者名簿及び研究テーマ、並びにホームページを更に充実させる。また、大分大学、大分工業専門学校、大分県産業科学技術センターとの連携を強化する。
-) エンジニアリング・リサーチ・センターでは、前年度に引き続きCATIAソフトを利用したCAD/CAM一貫加工システム、特に5軸加工技術の教育に努める。
-) 電気自動車の研究開発を続行し、更なる向上に努力する。

(4) 広報活動

) 入試広報

今年度は開学40周年記念の年であり、その記念事業の一環とした特色のあるオープンキャンパスを実施し、入学志願者の確保に努める。また、志願者のプロフィールを把握し適切な時期に適切な広報活動を行うため、ウェブサイト・メールマガジン・受験雑誌への掲載・高校訪問等の相乗効果を図りながら展開していく。

) 対外広報

大学を取り巻く社会との関係を主目的として、高校だけでなく企業・地域・卒業生とのリレーションを構築すると共に、効果的なTVCMの放映・新聞広告への掲載を昨年と同様に継続する。

) 学内広報

在校生や保護者に対する教職員による学内広報活動を通じて、学生募集の大切さを共有の認識とした広報活動を積極的に展開する。

(5) キャリア支援活動

) キャリア教育

- ・進路開発センターのキャリア開発プログラムと学科提案のキャリア教育を融合し、各学科オリジナルキャリア開発プログラムを策定する。
- ・スタートアップセミナーは全学的に取り組む必要があり、委員会(プロジェクト)を発足し中身の充実を図る。学生に対しては、就職講座での提出レポートの添削等は学生へ早期フィードバックする。

) 就職指導

- ・インターンシップの重要性を認識し、学科ごとで参加人数の目標を立て3年生の夏期休暇中に案内を出し、参加率をアップさせる。
- ・企業情報の提供を適格に推進する為、求人票開示の仕方を工夫・変更する。
- ・就職模擬試験対策プログラムを策定する。
- ・年2回3年生を対象に個別面談会を就職委員(教員)と共同で実施する。

(6) その他

-) 第三者評価を受けるため、第三者評価検討委員会の活動を更に活発化させる。
-) 教員活動評価システムを構築し、教員の教育研究・学生指導・社会貢献活動の活性化を図る。
-) 各種スポーツの振興に尽力し、成績の向上を目指す。
-) 科学研究費補助金をはじめ、外部資金確保に傾注する。
-) 本年は、創立40周年にあたるため、記念式典を開催するとともに、公開講座をはじめとする記念事業を展開する。また、別途定めた「中期将来計画、チャレンジ40」に従って、全学を挙げてこれに取り組み、大学のブランド化を精力的に展開する。

2. 日本文理大学附属高等学校

「産学一致」の建学精神の下、校訓である「自立・勤勉・敬愛」に則り、生徒個々に対応する。また、円満な人格の形成と優れた知識・技術の練磨を行いながら、社会の有為な形成者の育成を教育目標とする。

(1) 教育活動

) 基本的生活習慣の確立

「見逃さない、見放さない、甘やかさない」を合言葉に、校則や時間の厳守、服装の整齊を厳しく粘り強く指導する。

) 学力の向上

- ・教職員は授業に対する創意工夫を行い、生徒の実力に応じて充実した授業を行う。
- ・低学力者に対しては、放課後の基礎学力補習(国語・数学・英語)を実施し、基礎学力の定着と向上を図る。
- ・特進コースに対しては、補習体制や内容の充実を図り、国公立大学や有

名私立大学入試に対応できる学力をつけさせる。

) 部活動の強化

- ・運動部における競技力の向上と、高校生らしいスポーツマンとしての資質を養う中で、他の生徒の模範となるような生活態度、生活習慣を養う。
- ・部活動の指導にあたっては、体罰を一切行わず、高校運動部の生徒としての規律を遵守させ、今迄以上に指導強化する。
- ・文化部においては、心を豊かにするための情操教育を通じて、礼儀法など社会に通用する人材の育成を図る。

(2) 地域社会への貢献

-) ボランティア等の地域活動参加により、地域との信頼関係を構築し人との関わりを通じて思いやりの心を育む。
-) 「親子パソコン教室」の開催により、地域小学校PTAとの連携を図り、本校教職員の教育力や生徒の資質をアピールする。

(3) 業務計画

) 情報の共有

教職員間、各部署での報・連・相を徹底することにより、生徒指導や学校運営にあたる。

) 生徒募集

中学との連携強化、中高連絡委員の早期生徒募集活動、宮崎県(延岡市を対象とした生徒募集の取り組みを強化する。

) 特進コースの特色作り

- ・補習体制や補習内容の精選により、生徒の学習能力の向上を図る。
- ・佐伯市及び県南地域で、特進コースがブランド的な存在になり本校に入学することがステータスになるよう努力する。

) 大学との連携

本校と大学との間で遠隔講義・会議システムを検討する。

) 教育力の向上

全体のレベルアップの為、教職員の研修・研鑽による教育力の向上を図る。

3 . 日本文理大学医療専門学校

(1) 教育活動

-) 学習報告書の提出を促進し、学生の授業態度の改善をはかる。
-) 湯布院研修所勉強合宿を実施し、技師免許国家試験合格率90%以上を目指す。
-) 臨床実習中の学生指導の為、巡回指導を全教員で実施する。
-) 県内医療施設における実習生受け入れの負担を軽減するため、実習先病院を県内外に更に確保する。

(2) 学生生活

-) 全校集会を毎月実施し、学生指導及び伝達の周知徹底を図る。
-) フレッシュマンセミナーを実施する。
-) 個人面談を実施し、問題の把握と指導対応を徹底する。
-) 学習報告書の改訂を検討し、授業での理解度を適格に把握する。
-) 学生の遅刻・早退・欠席をなくすため、呼び出しのなど個人指導を更に強化する。
-) 学生用シラバスを配布し、学習を支援する。
-) 球技大会を10月に実施する。
-) 学年毎に進路セミナーを充実させ、社会人としてまた、医療技術者としての精神的な資質の向上を図る。
-) 校門指導を実施し、挨拶の励行、服装・頭髪指導を徹底する。
-) 成績不振者に対し、放課後または早朝の補習を実施する。

(3) 広報活動

-) 参加型オープンキャンパスを年2回8月と11月に実施する。
-) ミニオープンキャンパスを毎月第2土曜日に実施する。
-) 高校生のための進路ガイダンスには、積極的に参加する。
-) 生徒募集のため的高校訪問を県外に拡大して実施する。
-) 学校案内パンフレットを県内外の各高校に配布する。
-) 医療専門学校独自のインターネットホームページ検索範囲を拡大し、内容を更に充実させる。

(4) 学校運営及び組織改革

-) 校務分掌機構図と校務分掌上の業務分担及び指揮・命令系統の一本化を徹底する。
-) 事務職員と教員の管理上の区別を明確にする。
-) 職員朝礼は全職員が参加して実施する。
-) 校長、副校長、事務長、教務主任、進路指導主任、学生指導主任、各学科教室主任から成る運営委員会を毎週火曜日に実施する。
-) 職員会議を毎月月末に開催し、教職員への周知徹底をはかる。
-) 実験室等の備品及び消耗品を整備し、授業の充実をはかる。
-) 各分掌、各学科において、年間目標を設定し、年度末に実施状況を診断し、学校自己評価表を作成する。

(5) 施設・設備

-) 授業内容の充実と効率化をはかるため、プロジェクターを導入し、同時にスクリーンを設置する。
-) 学校独自の放送設備を改善する。(スピーカー)

(6) 教員の資質の向上

-) 学生に配布したシラバスに沿った授業計画を立て、各教科・科目毎の学習指導を見直す。
-) 教職員研修を、年2回実施する。
-) 研究授業を実施し、授業研修を推進する。
-) 公開授業を設定する。

4 . NBU大分美容専門学校

(1) 教育活動

-) 美のプロフェッショナルとしての未来を造る人間力の育成を図り、学生が伸び伸び・生き生きと学べる環境の中で、「挑戦する力」・「考える力」・「表現する力」・「夢みる力」・「感謝する力」を、授業を通じて教育していく。
-) 学習報告書を毎時間提出させ、教員が添削指導することで基礎・基本を理解させる。
-) 学生の不得意科目を把握し、特別指導を実施する。
-) 質の高い授業展開を目指して授業研究をする。
-) 学生に高い満足度を与える授業を目指して内覧授業・学生の授業評価を実施する。
-) 国家試験に準じた模擬試験を定期的実施する。
-) コンテストやイベントなどの諸活動に積極的に参加させ、多様で豊かな経験を積ませる。
-) プロフェッショナルとしての質の高い技術を修得させる。

(2) 広報活動

-) 学生の安定確保を最重点課題と位置付け、積極的な募集活動を教職員全員で実施する。
-) オープンキャンパスを通じて積極的に本校の教育内容をPRする。
-) 学校通信を発行し、保護者へ積極的に本校の教育活動をPRする。
-) 明るく挨拶ができるなど、サービス業に必要な「人間力」の育成に努める。

(3) キャリア支援

-) 進路シラバスを作成し、個別指導を早期に且つ定期的実施して就職意識を高める。